

Makeファイルの作成とプログラム保守ツール「Hmake.exe」を使用する

Rev1.01 2010/02/22

【対象】

統合環境 (High-performance Embedded Workshop) で作成したプロジェクトが対象になります。

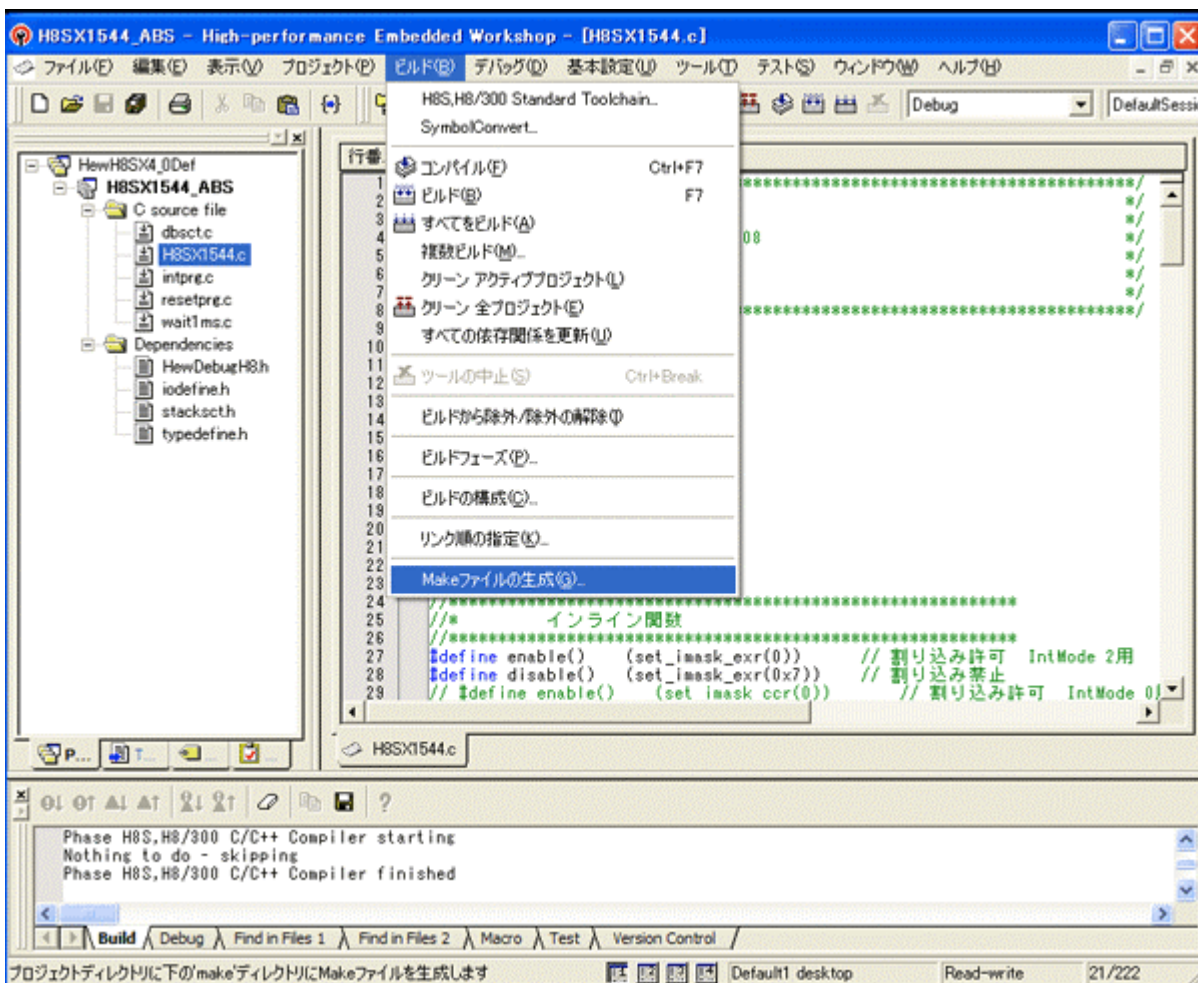
H8S,H8/300 Tool Chain(Ver7.00.0.0) ・ C/C++ Compiler(Ver7.00.00) ・ Assmebler(Ver6.02.01) ・ Optimizing Linkage Editor(Ver9.05.01)
SuperH RISC engine Tool Chain(Ver9.03.0.0) ・ C/C++ Compiler(Ver9.03.00) ・ Assmebler(Ver7.01.02) ・ Optimizing Linkage Editor(Ver9.05.00)

【概要】

統合環境(Hew4)で作成した環境を元に「Makefile」を作成し、直接コマンド方式でMakeさせる一例を記述します。

【Makeファイルの作成】

<1-1-1>



統合環境(Hew4)

<ビルド>-<Makeファイルの生成>
をクリックします。

【ワークスペースディレクトリ名】

・ HewH8SX4_0Def_make

【プロジェクト名】

・ H8SX1544_ABS

【コンフィグレーション名】

・ Debug

注意！！

Makeファイルを作成する場合、アプソリュートファイル指定方式のダウンロードに対応した設定にして下さい。

外部コマンド(HCsymconv等)の設定によっては、Hmake.exeが正しく認識しない場合があります。

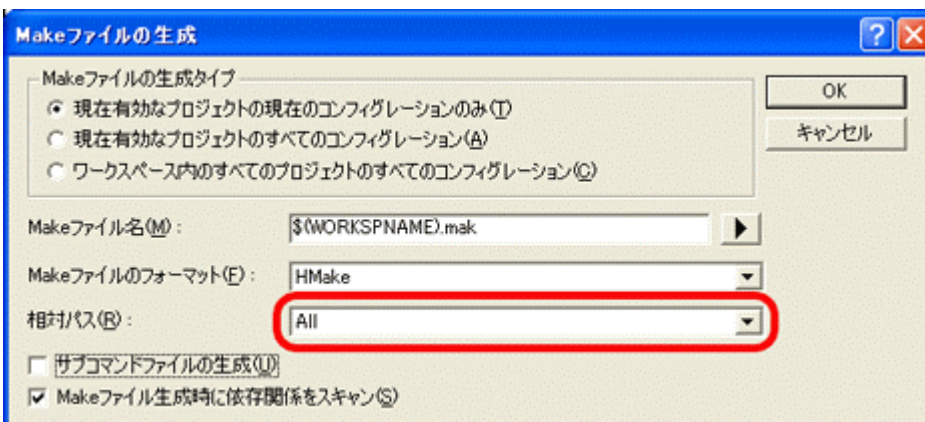
例)

HCsymconvのオプション設定で、

“\$(CONFIGDIR)¥\$(PROJECTNAME)”のように

に「ダブルコーテーション」で囲む設定にしていると、正しくmakeされません。

<1-1-2>



【作成場所】

<ワークスペースディレクトリ名>下に<make>ディレクトリが作成され、その中にMakeファイルが作成されます。

【Makeファイル名】

<プロジェクト名>_<コンフィグレーション名>.mak

H8SX1544_ABS_Debug.mak
になります。

【相対パス】 「All」を指定して下さい。

「OK」をクリックして下さい。

<1-1-3>

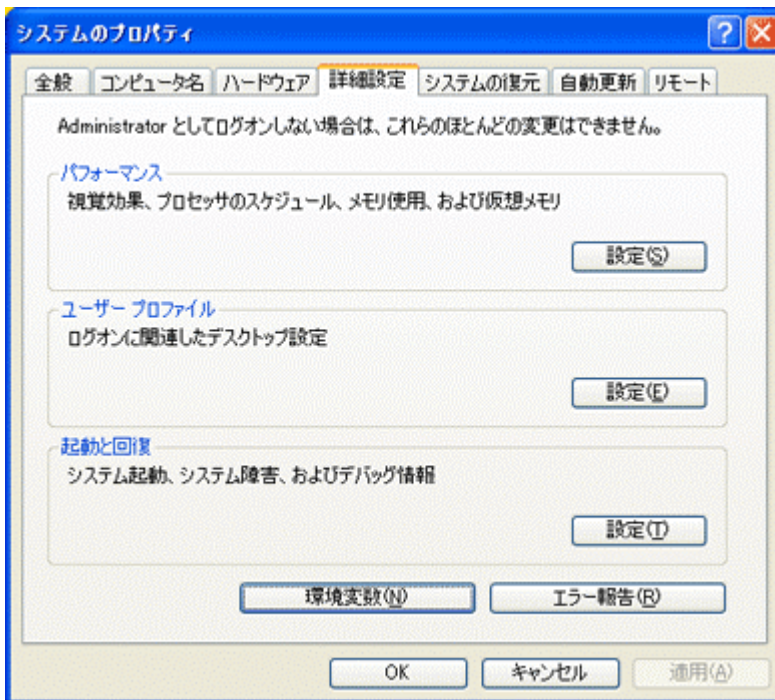


作成確認

作成の確認が出来ましたら統合環境(Hew4)を終了して下さい。

【Windowsの設定】

<2-1-1>

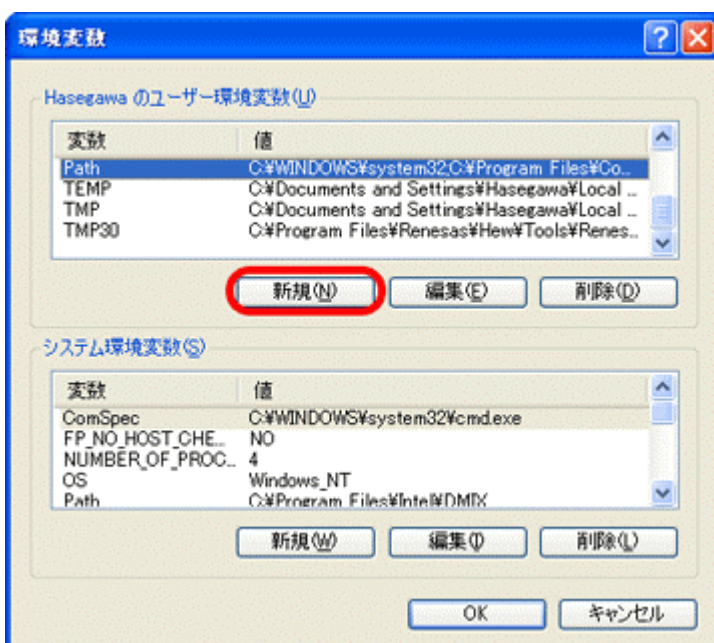


<マイコンピュータ>-<プロパティ>をクリックします。

「詳細設定」タグを選択します。

<--- 「環境変数」をクリックします。

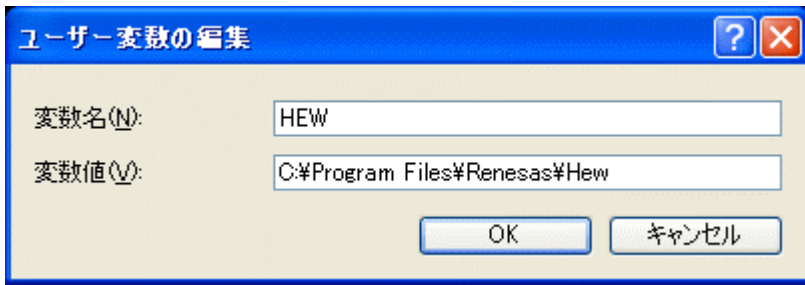
<2-1-2>



プログラム保守ツール「Hmake.exe」を起動させるためプログラム場所を環境変数「Path」に追加します。

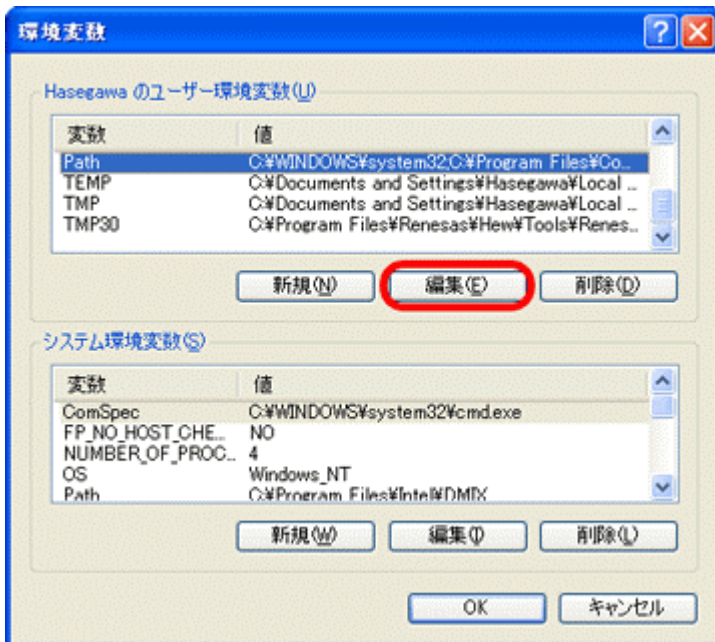
<--- 「新規」をクリックします。

<2-1-3>



便宜上「HEW」という環境変数を作成します。保守ツール「Hmake.exe」は、Hew のインストール場所にありますのでインストールしたフォルダ場所を指定します。デフォルトでは「C:\Program Files\Renesas\Hew」になります。<---設定が済みましたら「OK」をクリックします。

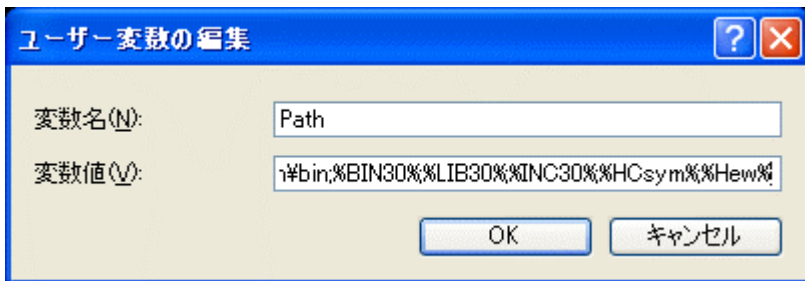
<2-1-4>



<--- 「Path」をクリックします。

<--- 「編集」をクリックします。

<2-1-5>



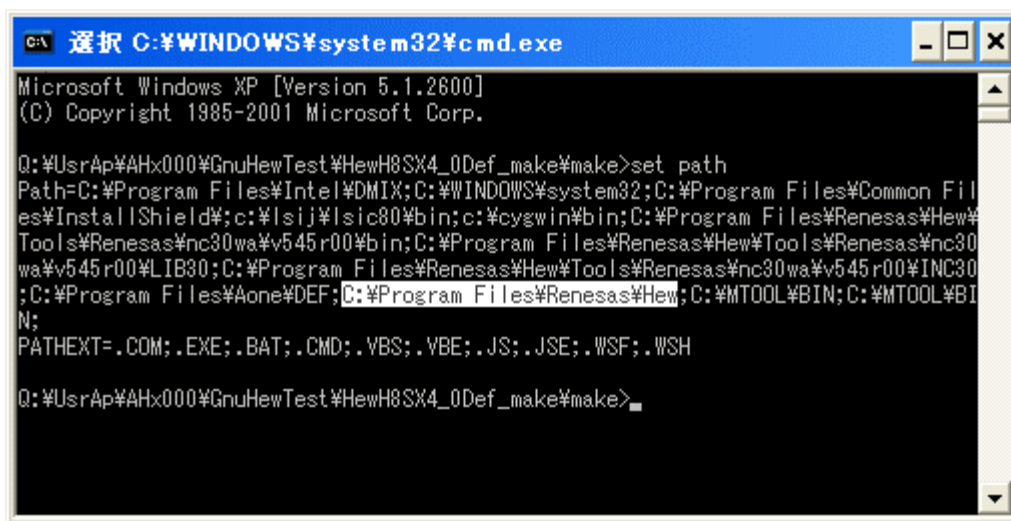
環境変数「Path」に先程作成した環境変数「HEW」を追加します。

<--- 「%HEW%」を追加します。「;」セミコロンをお忘れなく

<---設定が済みましたら「OK」をクリックします。

【コマンドプロンプトでの確認と実行】

<3-1-1>



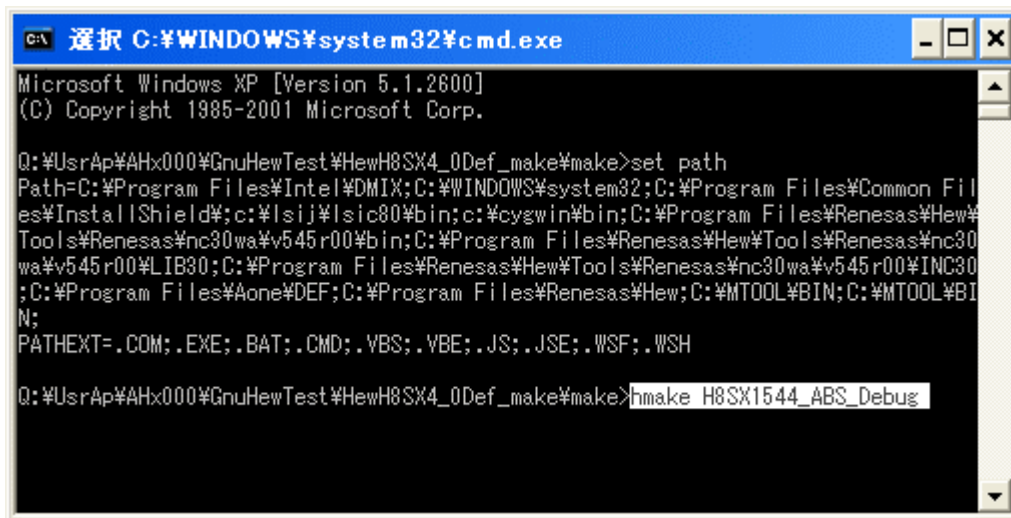
先程のMakeファイルを作成したディレクトリまでチェンジディレクトリ(CD)をします。

環境変数「Path」に正しく追加されているか確認をします。

..¥....>set Path↓

<---確認

<3-1-2>



```
C:\> 選択 C:\WINDOWS\system32\cmd.exe
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

Q:\UsrAp\AHx000\GnuHewTest\HewH8SX4_0Def_make\make>set path
Path=C:\Program Files\Intel\DMIX;C:\WINDOWS\system32;C:\Program Files\Common Fil
es\InstallShield;c:\lsij\lsic80\bin;c:\cygwin\bin;C:\Program Files\Renesas\Hew#
Tools\Renesas\nc30wa\v545r00\bin;C:\Program Files\Renesas\Hew\Tools\Renesas\nc30
wa\v545r00\LIB30;C:\Program Files\Renesas\Hew\Tools\Renesas\nc30wa\v545r00\INC30
;C:\Program Files\Aone\DEF;C:\Program Files\Renesas\Hew;C:\MTOOL\BIN;C:\MTOOL\BI
N;
PATHEXT=.COM;.EXE;.BAT;.CMD;.VBS;.VBE;.JS;.JSE;.WSF;.WSH

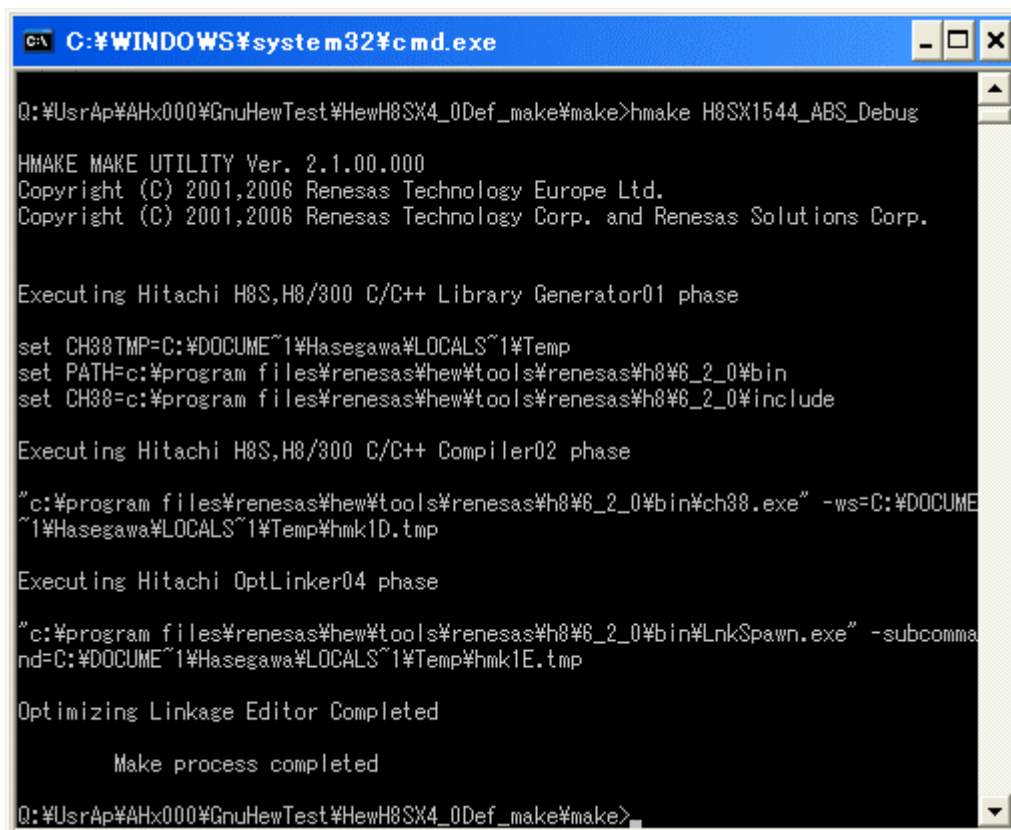
Q:\UsrAp\AHx000\GnuHewTest\HewH8SX4_0Def_make\make>hmake H8SX1544_ABS_Debug
```

プロジェクト内のソースファイルを何らかのエディタで
変更して日付を変更してみてください。

プログラム保守ツール「Hmake.exe」を起動します。

..¥....>hmake H8SX1544_ABS_Debug ↓

<3-1-3>



```
C:\> C:\WINDOWS\system32\cmd.exe
Q:\UsrAp\AHx000\GnuHewTest\HewH8SX4_0Def_make\make>hmake H8SX1544_ABS_Debug

HMAKE MAKE UTILITY Ver. 2.1.00.000
Copyright (C) 2001,2006 Renesas Technology Europe Ltd.
Copyright (C) 2001,2006 Renesas Technology Corp. and Renesas Solutions Corp.

Executing Hitachi H8S,H8/300 C/C++ Library Generator01 phase

set CH38TMP=C:\DOCUME~1\Hasegawa\LOCALS~1\Temp
set PATH=c:\program files\renesas\hew\tools\renesas\h8#6_2_0\bin
set CH38=c:\program files\renesas\hew\tools\renesas\h8#6_2_0\include

Executing Hitachi H8S,H8/300 C/C++ Compiler02 phase

"c:\program files\renesas\hew\tools\renesas\h8#6_2_0\bin\ch38.exe" -ws=C:\DOCUME
~1\Hasegawa\LOCALS~1\Temp\hmk1D.tmp

Executing Hitachi OptLinker04 phase

"c:\program files\renesas\hew\tools\renesas\h8#6_2_0\bin\LnkSpawn.exe" -subcomma
nd=C:\DOCUME~1\Hasegawa\LOCALS~1\Temp\hmk1E.tmp

Optimizing Linkage Editor Completed

Make process completed

Q:\UsrAp\AHx000\GnuHewTest\HewH8SX4_0Def_make\make>
```

このように更新のあったソースファイルのみコンパイル
／リンクエディタを実行してくれます。「ビルド」と同じ
動作となります。

今回の説明はデフォルトでの例で記述しましたが、Ma k eファイル名／相対パスの設定を利用し易くなるように変更すれば快適に操作できるかと思いま
す。色々と工夫をしてみてください。

New !!

DEFバージョン(Ver8.00B)より、DEFのV i e w画面から「Hm a k e」の起動が出来るようになります。

以上でプログラム保守ツール「Hmake.exe」の使用説明を終わります。